

伊那谷・経済動向

中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuscho-shinkin.jp/>

ALSHIN
BANK

主要指標		今期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業案内所管内)		2019/11 1.43 倍	2018/11 1.89 倍	前年同月比 -0.46 倍
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	5,906 台	7,594 台	-22.23 %
	中古車	2,073 台	2,086 台	-0.62 %
	合計	7,979 台	9,680 台	-17.57 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)		9~11月 312 件	9~11月 267 件	16.85 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		43,352 人	53,977 人	-19.68 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	285,315 台	294,872 台	-3.24 %
	出	274,294 台	281,741 台	-2.64 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	322,368 台	337,779 台	-4.56 %
	出	327,816 台	343,606 台	-4.60 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	110,197 台	107,803 台	2.22 %
	出	109,085 台	109,655 台	-0.52 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	262,692 台	280,392 台	-6.31 %
	出	266,793 台	284,190 台	-6.12 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	58,013 台	54,465 台	6.51 %
	出	52,029 台	49,114 台	5.94 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	248,324 台	258,831 台	-4.06 %
	出	242,777 台	253,018 台	-4.05 %

前期 7 - 9月 今期 10 - 12月 来期 1 - 3月 4 - 6月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先199社に対し、2019年10月～12月期の景気の現状と2020年1月～3月期の見通しを調査したものです。

地区内の景況観

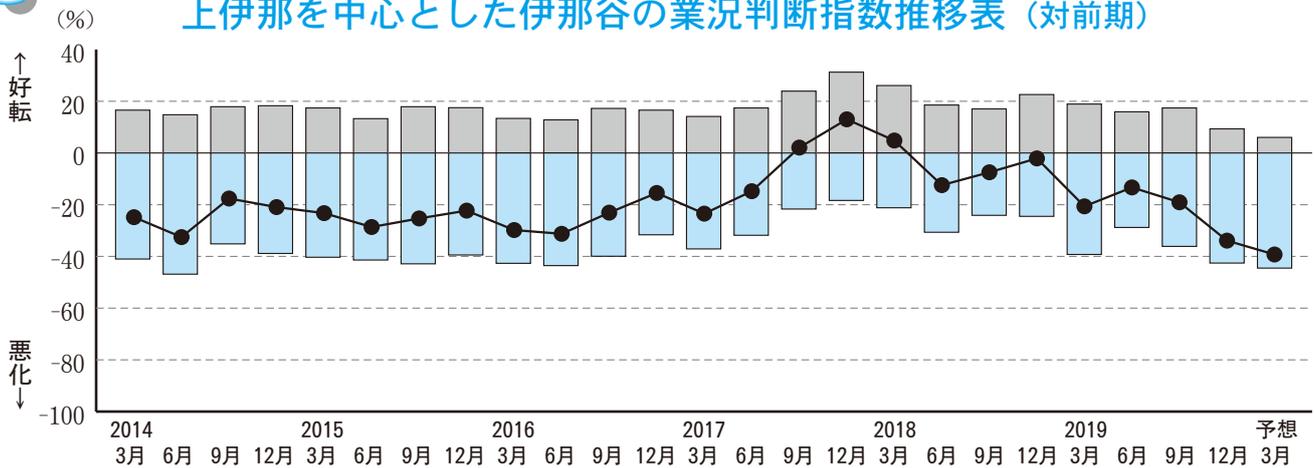
◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は9.9%（前期18.5%）、悪かったとする企業は43.6%（前期37.0%）、DIは▲33.7（前期▲18.5）と15.2ポイントの下降で、業況感は厳しさを増した。

業種別のDIを見ると、**製造業▲43.8**（前期▲33.8）、**建設業7.5**（前期11.9）、**卸売業▲50.0**（前期22.2）、**小売業▲51.6**（前期▲23.3）、**サービス業▲52.4**（前期▲45.5）、**不動産業▲16.7**（前期0.0）で、プラス領域に留まったのは建設業のみであり、その他の業種はマイナス領域となっている。前期と比較すると全ての業種で後退しており、特に卸売業においては▲72.2ポイントと大幅に後退しており、続いて小売業が▲28.3ポイント、不動産業が▲16.7ポイント、製造業が▲10.0ポイント、サービス業が▲6.9ポイント、建設業が▲4.4ポイントそれぞれ前期を下回る状況となっている。

◇**来期の見通し**：来期の業況予想を総合的に見ると、良いと予想する企業は6.4%（今期9.9%）、悪いと予想する企業は45.6%（今期43.6%）、DIは▲39.2（今期▲33.7）で、今期を上回る悪化を予想している。

業種別のDIを見ると、**製造業▲44.4**、**建設業▲17.5**、**卸売業▲40.0**、**小売業▲45.2**、**サービス業▲57.1**、**不動産業▲33.3**ポイントとなっており、全ての業種でマイナス領域を予想している。今期と比較して、卸売業が10.0ポイント、小売業が6.4ポイントそれぞれ上昇で水面下ながら改善予想であるものの、その他の業種は、**製造業▲0.6**ポイント、**建設業▲25.0**ポイント、**サービス業▲4.7**ポイント、**不動産業▲16.6**ポイントとそれぞれ悪化が強まる見通しとなっている。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



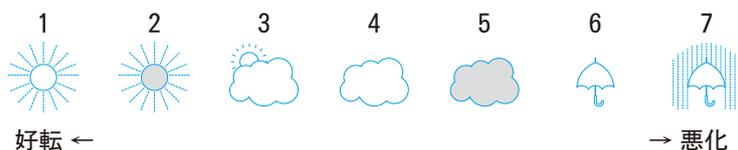
※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

業種別天気図

業種	時期	2019年	2019年	2019年	2020年
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期予想
総合		☁	☁	☔	☔
製造業		☁	☔	☔	☔
建設業		☁	☁	☁	☁
卸売業		☁	☁	☔	☔
小売業		☔	☁	☔	☔
サービス業		☁	☔	☔	☔
不動産業		☁	☁	☁	☔



製 造 業 (調査先企業73社 うち回答企業64社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**9.4%**(前期**12.3%**)、悪かったとする企業は**53.1%**(前期**46.2%**)でDIは**▲43.8**(前期**▲33.8**)で**▲10.0**ポイントと水面下での更なる悪化となった。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**▲26.6**(前期**▲30.8**)と水面下ながら回復の兆しが見えたものの、**収益**のDIは**▲39.1**(前期**▲30.8**)と更に減少した。一方、**受注残**のDIは**▲26.6**(前期**▲41.5**)と**14.9**ポイント増加。価格の面では、**原材料価格**のDIは**▲17.2**(前期**▲16.9**)で**0.3**ポイント上昇した。また、**販売価格**のDIは**▲1.6**(前期**1.5**)と**3.1**ポイント下降でマイナスに転じて厳しさを強めている。**資金繰り**のDIは、**▲15.6**(前期**▲15.4**)と窮屈感は変わらない。**借入れ**をした企業は**32.8%**(前期**27.0%**)、**設備投資の実施**をした企業も**50.0%**(前期**47.5%**)とそれぞれ前期より更に増加している。

前年同期比で見ると、**売上額**はDI**▲47.6**(前年同期**11.4**)、**収益**はDI**▲47.6**(前年同期**0.0**)とそれぞれ**▲59.0**ポイント、**▲47.6**ポイントと大幅下降し、水面下に落ち込んでいる。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについて、業況のDIは**▲44.4**(今期**▲43.8**)と**0.6**ポイントの下降で、水面下において更なる悪化の予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、**売上額**のDIは**▲25.0**(今期**▲26.6**)、**受注残**のDIは**▲25.0**(今期**▲26.6**)、**収益**のDIは**▲39.1**(今期**▲39.1**)と大きな変動はない見通しである。**原材料価格**のDIは**▲17.2**(今期**▲17.2**)、**販売価格**のDIにおいても**▲1.6**(今期**▲1.6**)と来期においても変わらず低迷予想、**資金繰り**のDIは**▲17.2**(今期**▲15.6**)と窮屈感はやや強まる見通しである。**借入れ**を予定している企業は**26.6%**(今期**32.8%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**40.5%**(今期**50.0%**)となっている。

◆DI指数推移

	2018年 10~12月	2019年				予 想 1~3月
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	12.9	▲22.9	▲11.8	▲33.8	▲43.8	▲44.4
売 上 額	18.6	▲30.0	▲22.1	▲30.8	▲26.6	▲25.0
受 注 残	8.6	▲20.0	▲29.4	▲41.5	▲26.6	▲25.0
収 益	0.0	▲42.9	▲30.9	▲30.8	▲39.1	▲39.1
販 売 価 格	2.9	▲8.6	▲4.4	1.5	▲1.6	▲1.6
原 材 料 価 格	▲40.0	▲30.0	▲26.5	▲16.9	▲17.2	▲17.2
原 材 料 在 庫	10.0	10.0	11.8	10.8	10.9	10.9
資 金 繰 り	1.4	▲12.9	▲13.2	▲15.4	▲15.6	▲17.2

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年 10~12月	2019年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
借 入 実 施	した	33.3	28.6	29.9	27.0	32.8	26.6
	しない	66.7	71.4	70.1	73.0	67.2	73.4
借 入 難 易 度	容 易	17.4	11.4	8.8	6.2	48.2	—
	不 変	66.7	70.0	67.7	73.8	44.8	—
	難	7.2	10.0	8.8	7.7	2.6	—
	該当なし	8.7	8.6	14.7	12.3	4.4	—

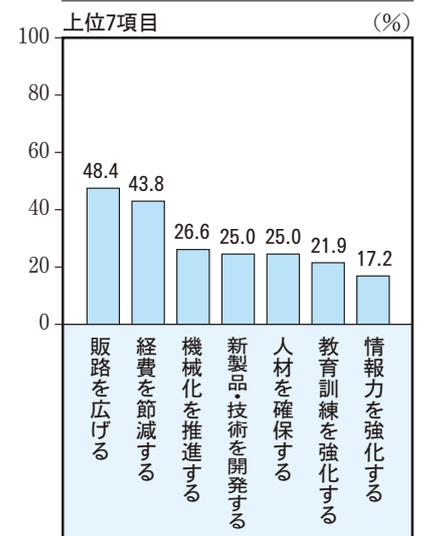
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年 10~12月	2019年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
実 施	した	54.9	38.6	40.0	47.5	50.0	40.5
	しない	45.1	61.4	60.0	52.5	50.0	59.5
状 況	過 剰	2.9	2.9	5.9	9.2	7.8	7.9
	適 正	70.0	81.4	88.2	75.4	71.9	73.1
	不 足	27.1	15.7	5.9	15.4	20.3	19.0
DI	▲24.2	▲12.8	0.0	▲6.2	▲12.5	▲11.1	

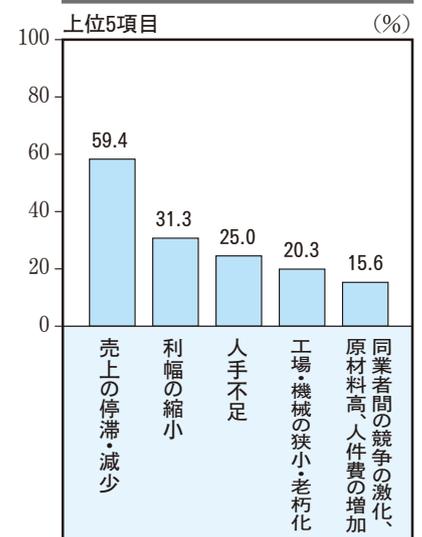
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年 10~12月	2019年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
残 業 時 間	増 加	30.0	18.6	5.9	9.2	14.1	4.7
	不 変	54.3	50.0	57.3	57.0	48.4	60.9
	減 少	15.7	31.4	36.8	33.8	37.5	34.4
人 手	過 剰	7.1	7.1	7.4	13.8	14.1	7.8
	適 正	44.3	52.9	70.5	66.2	60.9	68.8
	不 足	48.6	40.0	22.1	20.0	25.0	23.4

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



建設業

(調査先企業43社 うち回答企業40社)

◆**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**15.0%**(前期**26.2%**)、悪かったとする企業は**7.5%**(前期**14.3%**)で、DIは**7.5**(前期**11.9**)と**4.4**ポイント下降で好調感は後退した。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**0.0**(前期**4.8**)で好調感は落ち着いた。**受注残**のDIは**▲15.4**(前期**7.1**)と**▲22.5**ポイントでマイナスに転じ、**施工高**のDIは**2.5**(前期**4.8**)と**▲2.3**ポイントで増加幅が縮小した。**収益**のDIは**▲10.0**(前期**7.1**)と**17.1**ポイント減で水面下に落ち込んだ。**価格面**では、**請負価格**のDIは**▲7.5**(前期**2.4**)と上昇から下降に転じ、**材料価格**のDIも**▲37.5**(前期**▲40.5**)と上昇幅はやや減少している。**資金繰り**のDIは**0.0**(前期**2.4**)に後退した。**借入れ**をした企業は**39.5%**(前期**35.0%**)、**設備投資の実施**をした企業は**37.8%**(前期**31.1%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**▲5.0**(前年同期**5.0**)とマイナスに転じたものの、**収益**のDIは**10.0**(前年同期**▲25.0**)と**35.0**ポイント改善し好転している。

◆**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI**▲17.5**(今期**7.5**)と**25.0**ポイント下降、悪化に転じる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**のDIは**▲15.0**(今期**0.0**)と減少に転じ、**受注残**のDIは**▲12.8**(今期**▲15.4**)と減少はやや緩和、**収益**のDIは**▲15.0**(今期**▲10.0**)と減少は強まる見通しである。**請負価格**のDIは**▲7.5**(今期**▲7.5**)と変わらず推移する見通しである。**材料価格**のDIは**▲27.5**(今期**▲37.5**)と下降幅がやや縮小する見通しである。**資金繰り**のDIは**▲7.7**(今期**0.0**)と窮屈感が現れる予想である。**借入れ**を予定している企業は**40.5%**(今期**39.5%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**35.6%**(今期**37.8%**)となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	2018年		2019年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	0.0	12.2	4.7	11.9	7.5	▲17.5	
売 上 額	17.5	12.2	11.6	4.8	0.0	▲15.0	
受 注 残	5.0	19.5	11.6	7.1	▲15.4	▲12.8	
収 益	▲15.0	2.4	9.3	7.1	▲10.0	▲15.0	
販 売 価 格	▲2.5	7.3	4.7	2.4	▲7.5	▲7.5	
原 材 料 価 格	▲60.0	▲46.3	▲48.8	▲40.5	▲37.5	▲27.5	
原 材 料 在 庫	2.6	0.0	4.8	2.4	0.0	▲2.5	
資 金 繰 り	▲20.0	▲12.2	▲9.3	2.4	0.0	▲7.7	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年		2019年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	41.0	46.2	50.0	35.0	39.5	40.5
	しない	59.0	53.8	50.0	65.0	60.5	59.5
借 入 難 易 度	容 易	5.1	5.0	4.9	7.3	5.4	—
	不 変	64.1	67.5	65.9	68.3	70.3	—
	難	15.4	12.5	14.6	12.2	13.5	—
	該当なし	15.4	15.0	14.6	12.2	10.8	—

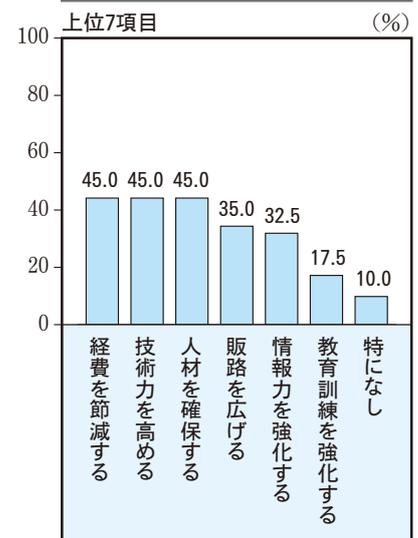
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年		2019年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	43.5	34.1	43.1	31.1	37.8	35.6
	しない	56.5	65.9	56.9	68.9	62.2	64.4
状 況	過 剰	2.5	2.4	7.1	0.0	0.0	0.0
	適 正	87.5	83.0	81.0	92.5	85.4	87.5
	不 足	10.0	14.6	11.9	7.5	14.6	12.5
DI	▲7.5	▲12.2	▲4.8	▲7.5	▲14.6	▲12.5	

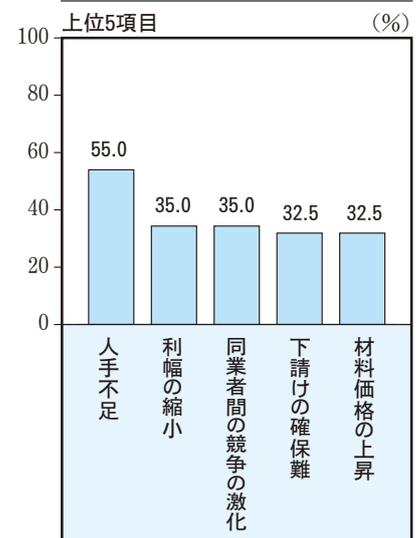
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年		2019年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	17.5	12.5	7.3	7.3	12.8	12.8
	不 変	75.0	70.0	70.7	78.1	74.4	76.9
	減 少	7.5	17.5	22.0	14.6	12.8	10.3
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	2.5
	適 正	45.0	39.0	53.5	47.6	47.5	55.0
	不 足	55.0	61.0	46.5	52.4	47.5	42.5

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



卸 売 業 (調査先企業10社 うち回答企業10社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は10.0%(前期33.3%)、悪かったとする企業は60.0%(前期11.1%)で、DIは▲50.0(前期22.2)と72.2ポイント下降で水面下に落ち込んだ。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲50.0(前期33.3)、収益のDIは▲30.0(前期33.3)とそれぞれ83.3ポイント、63.3ポイントの大幅なマイナス転換で厳しさを強めている。販売価格のDIは30.0(前期11.1)と18.9ポイント増加で上昇傾向を強めている。仕入価格のDIは▲30.0(前期▲11.1)と仕入価格は更に上昇している。資金繰りのDIは▲10.0(前期▲11.1)と窮屈感はやや緩和された。借入れをした企業は40.0%(前期33.3%)、設備投資の実施をした企業は10.0%(前期11.1%)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは▲30.0(前年同期20.0)と50.0ポイントのマイナス転換、収益のDIも▲10.0(前年同期10.0)と20.0ポイント減少に転じた。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについてのDIは▲40.0(今期▲50.0)と10.0ポイントの良化で、やや改善傾向にある予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲60.0(今期▲50.0)、収益のDIは▲40.0(今期▲30.0)とどちらも今期以上に減少する見通しである。価格面をみると、販売価格のDIは30.0(今期30.0)と現状維持の見通し、仕入価格のDIは▲40.0(今期▲30.0)と更に上昇する見通しである。資金繰りのDIは▲20.0(今期▲10.0)と窮屈感は強まる予想である。借入れを予定している企業は20.0%(今期実施40.0%)、設備投資の実施を予定している企業は10.0%(今期実施10.0%)となっている。

◆DI指数推移

	2018年		2019年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	20.0	0.0	11.1	22.2	▲50.0	▲40.0	
売 上 額	10.0	▲22.2	33.3	33.3	▲50.0	▲60.0	
収 益	10.0	▲22.2	33.3	33.3	▲30.0	▲40.0	
販 売 価 格	30.0	33.3	33.3	11.1	30.0	30.0	
仕 入 価 格	▲30.0	▲44.4	▲44.4	▲11.1	▲30.0	▲40.0	
在 庫	10.0	22.2	33.3	22.2	10.0	10.0	
資 金 繰 り	▲10.0	▲11.1	0.0	▲11.1	▲10.0	▲20.0	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年		2019年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	40.0	50.0	44.4	33.3	40.0	20.0
	しない	60.0	50.0	55.6	66.7	60.0	80.0
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	80.0	100.0	77.8	77.8	70.0	—
	難	10.0	0.0	11.1	11.1	10.0	—
	該当なし	10.0	0.0	11.1	11.1	20.0	—

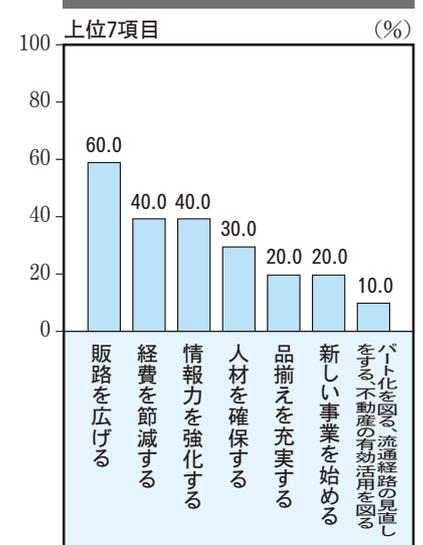
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年		2019年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	36.4	10.0	30.0	11.1	10.0	10.0
	しない	63.6	90.0	70.0	88.9	90.0	90.0
状 況	過 剰	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	10.0
	適 正	80.0	88.9	88.9	88.9	90.0	90.0
	不 足	20.0	11.1	11.1	0.0	10.0	0.0
DI	▲20.0	▲11.1	▲11.1	11.1	▲10.0	10.0	

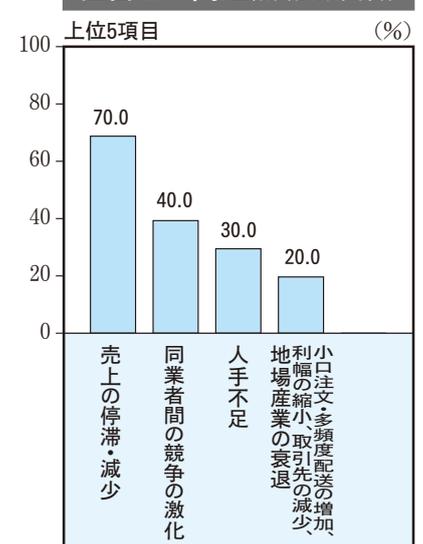
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年		2019年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	30.0	11.1	22.2	11.1	10.0	0.0
	不 変	60.0	55.6	55.6	88.9	80.0	80.0
	減 少	10.0	33.3	22.2	0.0	10.0	20.0
人 手	過 剰	0.0	11.1	11.1	11.1	10.0	10.0
	適 正	70.0	66.7	66.7	66.7	60.0	80.0
	不 足	30.0	22.2	22.2	22.2	30.0	10.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



小 売 業 (調査先企業40社 うち回答企業32社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**9.7%**(前期**23.3%**)、悪かったとする企業は**61.3%**(前期**46.7%**)で、DIは**▲51.6**(前期**▲23.3**)と**28.3**ポイント下げ、悪化が強まっている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲9.4**(前期**▲31.3**)と**21.9**ポイント上昇し回復の兆しが見られるが、収益のDIは**▲25.0**(前期**▲25.0**)と変化はない。販売価格のDIは**9.4**(前期**12.5**)と**3.1**ポイント上昇幅が縮小、仕入価格のDIは**▲37.5**(前期**▲12.5**)で仕入価格は更に上昇している。資金繰りのDIは**▲28.1**(前期**▲9.4**)と**18.7**ポイント下降し窮屈感が強まっている。借入れをした企業は**32.3%**(前期**37.5%**)、設備投資の実施をした企業は**29.4%**(前期**37.1%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲34.4**(前年同期**3.2**)と増加から減少に転じ、収益のDIは**▲46.9**(前年同期**▲25.8**)と更に減少している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲45.2**(今期**▲51.6**)と水面下ながら**6.4**ポイント上向き予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲6.3**(今期**▲9.4**)、収益のDIは**▲6.3**(今期**▲25.0**)とどちらも持ち直す見通しである。販売価格のDIは**12.9**(今期**9.4**)と上昇傾向を強め、仕入価格のDIは**▲29.0**(今期**▲37.5**)と上昇は緩和される見通しである。借入れを予定している企業は**9.4%**(今期実施**32.3%**)、設備投資の実施を予定している企業は**21.9%**(今期実施**29.4%**)となっている。

◆DI指数推移

	2018年	2019年				予 想
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
業 況	▲29.0	▲33.3	▲33.3	▲23.3	▲51.6	▲45.2
売 上 額	12.9	▲36.4	▲42.4	▲31.3	▲9.4	▲6.3
収 益	3.2	▲36.4	▲42.4	▲25.0	▲25.0	▲6.3
販 売 価 格	16.1	0.0	3.0	12.5	9.4	12.9
仕 入 価 格	▲32.3	▲27.3	▲30.3	▲12.5	▲37.5	▲29.0
在 庫	12.9	6.1	6.1	9.4	12.5	6.3
資 金 繰 り	▲10.0	▲24.2	▲21.2	▲9.4	▲28.1	▲15.6

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年	2019年				予 想	
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月		10~12月
借 入 実 施	した	19.4	30.3	12.1	37.5	32.3	9.4
	しない	80.6	69.7	87.9	62.5	67.7	90.6
借 入 難 易 度	容 易	6.5	15.2	12.1	18.8	9.4	—
	不 変	45.2	45.4	48.5	46.8	53.1	—
	難	22.6	12.1	18.2	18.8	15.6	—
	該当なし	25.7	27.3	21.2	15.6	21.9	—

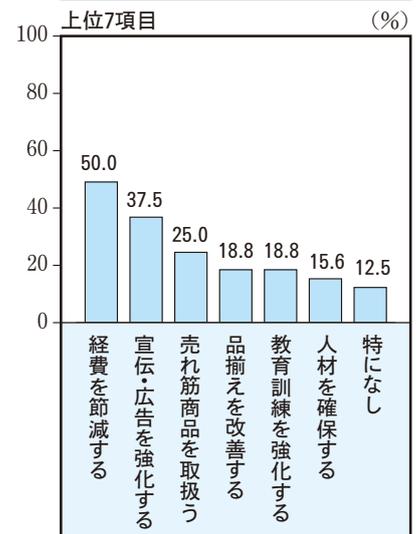
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年	2019年				予 想	
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月		10~12月
実 施	した	18.8	20.6	21.2	37.1	29.4	21.9
	しない	81.2	79.4	78.8	62.9	70.6	78.1
状 況	過 剰	6.7	6.1	3.1	3.2	3.1	0.0
	適 正	66.6	78.7	75.0	74.2	75.0	78.1
	不 足	26.7	15.2	21.9	22.6	21.9	21.9
DI	▲20.0	▲9.1	▲18.8	▲19.4	▲18.8	▲21.9	

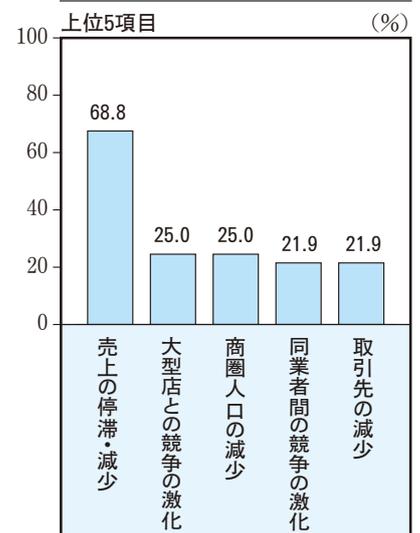
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年	2019年				予 想	
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月		10~12月
残 業 時 間	増 加	6.5	9.1	6.1	0.0	6.3	6.5
	不 変	90.3	90.9	87.8	87.1	81.2	83.8
	減 少	3.2	0.0	6.1	12.9	12.5	9.7
人 手	過 剰	6.5	0.0	3.0	6.5	6.3	6.5
	適 正	70.9	78.8	66.7	67.7	68.7	64.5
	不 足	22.6	21.2	30.3	25.8	25.0	29.0

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



サービス業 (調査先企業27社 うち回答企業21社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**4.8%**(前期**9.1%**)、悪かったとする企業は**57.1%**(前期**54.5%**)で、DIは**▲52.4**(前期**▲45.5**)と水面下のまま**6.9**ポイント悪化幅が拡大している。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**▲38.1**(前期**▲4.3**)と減少幅が拡大、**収益**のDIにおいても**▲33.3**(前期**▲13.0**)と更に減少している。**仕入価格**のDIは**▲52.4**(前期**▲47.8**)と仕入価格は更に上昇、**料金価格**のDIは**9.5**(前期**4.3**)と上昇傾向を強めている。**資金繰り**のDIは**▲47.6**(前期**▲26.1**)と厳しさが増している状況。**借入れ**をした企業は**19.0%**(前期**22.7%**)、**設備投資の実施**をした企業は**36.4%**(前期**26.9%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**▲23.8**(前年同期**▲3.8**)で**▲20.0**ポイントと低迷しているが、**収益**のDIは**▲9.5**(前年同期**▲15.4**)と**5.9**ポイント回復の兆しがみられる。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについて、DIは**▲57.1**(今期**▲52.4**)と水面下のまま**4.7**ポイント下降で悪化が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**のDIは**▲45.0**(今期**▲38.1**)で減少幅が拡大、**収益**のDIにおいても**▲45.0**(今期**▲33.3**)と減少幅が拡大する予想。**仕入価格**のDIは**▲25.0**(今期**▲52.4**)と上昇幅が縮小する見通し、**料金価格**のDIも**▲5.0**(今期**9.5**)と下降に転じる見通しである。**資金繰り**のDIは**▲30.0**(今期**▲47.6**)と窮屈感はやや緩和される見通しである。**借入れ**を予定している企業は**25.0%**(今期実施**19.0%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**29.2%**(今期実施**36.4%**)となっている。

◆DI指数推移

	2018年	2019年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	▲19.2	▲56.0	▲25.0	▲45.5	▲52.4	▲57.1
売 上 額	▲3.8	▲40.0	▲4.2	▲4.3	▲38.1	▲45.0
収 益	▲11.5	▲40.0	0.0	▲13.0	▲33.3	▲45.0
料 金 価 格	▲3.8	▲4.0	20.8	4.3	9.5	▲5.0
材 料 価 格	▲30.8	▲20.0	▲50.0	▲47.8	▲52.4	▲25.0
資 金 繰 り	▲15.4	▲36.0	▲12.5	▲26.1	▲47.6	▲30.0

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年	2019年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	11.5	12.0	16.7	22.7	19.0	25.0
	しない	88.5	88.0	83.3	77.3	81.0	75.0
借 入 難 易 度	容 易	7.7	4.3	4.2	4.5	4.8	—
	不 変	65.4	82.7	83.3	77.4	80.9	—
	難	11.5	4.3	8.3	4.5	4.8	—
	該当なし	15.4	8.7	4.2	13.6	9.5	—

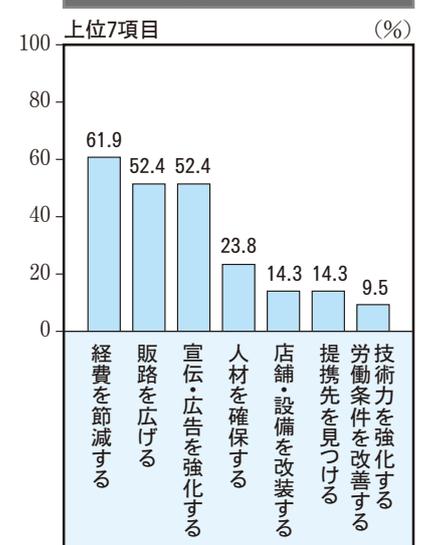
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年	2019年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	32.3	23.1	4.2	26.9	36.4	29.2
	しない	67.7	76.9	95.8	73.1	63.6	70.8
状 況	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.6
	適 正	84.0	79.2	87.0	81.8	63.1	61.1
	不 足	16.0	20.8	13.0	18.2	31.6	33.3
DI	▲16.0	▲20.8	▲13.0	▲18.2	▲26.3	▲27.7	

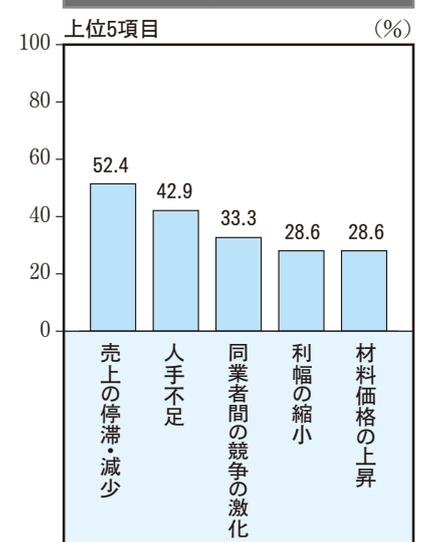
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年	2019年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	12.5	12.0	14.3	14.3	10.5	10.5
	不 変	79.2	68.0	71.4	71.4	73.7	68.4
	減 少	8.3	20.0	14.3	14.3	15.8	21.1
人 手	過 剰	0.0	8.0	0.0	4.3	5.0	5.0
	適 正	69.2	68.0	60.9	60.9	55.0	55.0
	不 足	30.8	24.0	39.1	34.8	40.0	40.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業6社)

◇**今期の業況**: 今期の業況は、良かったとする企業は**0.0%**(前期**20.0%**)、悪かったとする企業は**16.7%**(前期**20.0%**)で、DIは**▲16.7**(前期**0.0**)と悪化の兆しがある。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**と**収益**のDIはどちらも**▲50.0**(前期**20.0**)と**70.0**ポイントの大幅減少により再び水面下に落ち込んでいる。**販売価格**のDIは**▲16.7**(前期**0.0**)と下降し、**仕入価格**のDIも**16.7**(前期**0.0**)と下降傾向にある。**借入れ**をした企業は**16.7%**(前期**0.0%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**▲33.3**(前年同期**20.0**)と増加から減少に転じ、**収益**のDIは**▲33.3**(前年同期**0.0**)と減少傾向となった。

◇**来期の見通し**: 来期の見通しについては、DIは**▲33.3**(今期**▲16.7**)と厳しさを強めると予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**のDIは**▲33.3**(今期**▲50.0**)、**収益**のDIも**▲33.3**(今期**▲50.0**)と減少・減益幅が縮小、**販売価格**のDIは**▲33.3**(今期**▲16.7**)と下降傾向の見通しであり、**仕入価格**のDIにおいては**33.3**(今期**16.7**)と下降傾向を強める見通しである。**借入れ**を予定している企業は**16.7%**(今期実施**16.7%**)となっている。

◆DI指数推移

	2018年	2019年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	16.7	▲16.7	▲16.7	0.0	▲16.7	▲33.3
売 上 額	16.7	16.7	▲33.3	20.0	▲50.0	▲33.3
収 益	16.7	16.7	▲33.3	20.0	▲50.0	▲33.3
販 売 価 格	16.7	▲16.7	▲16.7	0.0	▲16.7	▲33.3
仕 入 価 格	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3
在 庫	0.0	▲33.3	▲33.3	▲20.0	▲33.3	▲50.0
資 金 繰 り	0.0	16.7	▲83.3	20.0	33.3	0.0

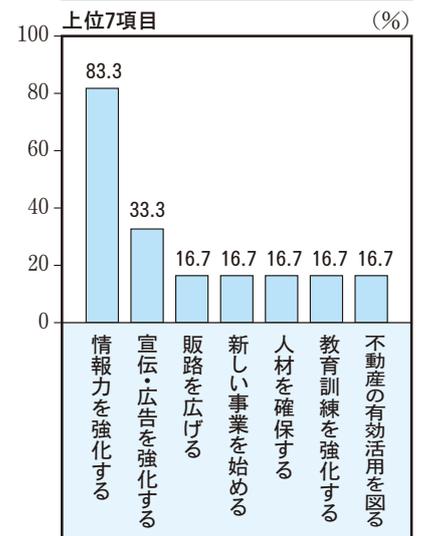
◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年	2019年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7
	しない	83.3	100.0	83.3	100.0	83.3	83.3
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	66.7	100.0	66.7	80.0	66.7	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該当なし	33.3	0.0	33.3	20.0	33.3	—

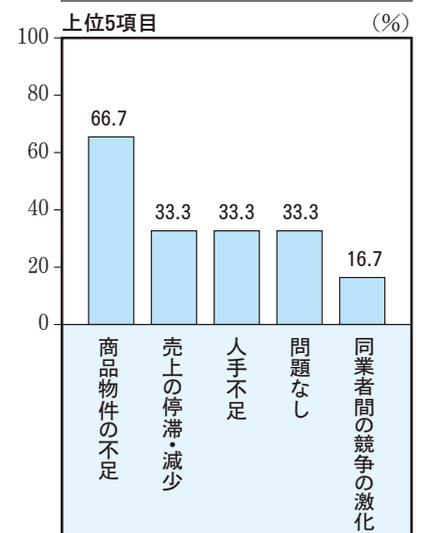
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年	2019年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0	83.3
	減 少	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	83.3	100.0	83.3	80.0	100.0	83.3
	不 足	16.7	0.0	16.7	20.0	0.0	16.7

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



特別調査 2020年(令和2年)の経営見通し

問1 貴社では、2020年の日本の景気をどのように見通していますか。

総合では、『良い』(「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計)と回答した企業の割合は低く**9.3%**にとどまっているが、それに比べ『悪い』(「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計)と回答した企業の割合の方が**69.2%**と非常に高くなっている。『良い』-『悪い』は**▲59.9**と大きくマイナスとなり景況は厳しさを増すと予想している。1年前の本特別調査(2019年の経営見通し)でも**▲22.7**とマイナス領域であったが、今回調査では更なる悪化が予想されている。

業種別に『良い』-『悪い』を見た場合、全ての業種においてマイナス領域であるが、マイナスが大きい順に小売業**▲84.4**、製造業**▲66.7**、卸売業**▲60.0**、不動産業**▲50.0**、サービス業**▲43.0**、建設業**▲40.0**の順となっている。(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 非常に良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 良い	2.9	1.6	5.0	0.0	3.1	4.7	0.0
3. やや良い	6.4	6.3	12.5	0.0	0.0	9.5	0.0
4. 普通	21.5	17.5	25.0	40.0	9.4	28.6	50.0
5. やや悪い	54.1	52.3	47.5	60.0	71.9	42.9	50.0
6. 悪い	11.6	17.5	5.0	0.0	12.5	14.3	0.0
7. 非常に悪い	3.5	4.8	5.0	0.0	3.1	0.0	0.0

問2 貴社では、2020年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。

総合では、『良い』(「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計)と回答した企業の割合は低く**6.4%**にとどまっているが、それに比べ『悪い』(「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計)と回答した企業の割合の方が**51.2%**と非常に高くなっている。『良い』-『悪い』は**▲44.8**と大きくマイナスとなり、自社の業況(景気)は上記問1の日本の景気見通しと同様に厳しさを増すと予想している。

業種別に『良い』-『悪い』を見た場合、全ての業種においてマイナス領域であるが、マイナスが大きい順に、小売業**▲81.3**、製造業**▲47.5**、サービス業**▲42.8**、不動産業**▲33.3**、卸売業**▲30.0**、建設業**▲17.5**の順となっている。

調査員のコメントでは、今後の景気の見通しが立たない状況下で、高齢化や事業継承に不安を感じている企業もみられる。(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 非常に良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 良い	1.7	3.2	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0
3. やや良い	4.7	4.8	7.5	10.0	3.1	0.0	0.0
4. 普通	42.4	36.5	62.5	50.0	12.5	57.2	66.7
5. やや悪い	39.0	39.7	17.5	40.0	68.8	33.3	33.3
6. 悪い	9.3	9.5	7.5	0.0	15.6	9.5	0.0
7. 非常に悪い	2.9	6.3	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0

問3 2020年において貴社の売上額の伸び率は、2019年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

総合では、**36.3%**の企業は変わらないと回答している。『増加』(「30%以上の増加」~「10%未満の増加」の合計)と回答した企業の割合は**21.6%**、『減少』(「30%以上の減少」~「10%未満の減少」の合計)と回答した企業の割合は**42.1%**であった。『増加』-『減少』は**▲20.5**とマイナス領域であり、『減少』と答えた企業が『増加』と答えた企業を上回った。

業種別に『増加』-『減少』を見た場合、プラス領域の業種はなくマイナスが大きい順に、小売業**▲51.6**、卸売業**▲40.0**、製造業**▲17.5**、不動産業**▲16.7**、サービス業**▲14.3**、建設業**0.0**の順となっている。(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 30%以上の増加	0.6	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 20~29%の増加	0.6	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 10~19%の増加	2.3	1.6	5.0	10.0	0.0	0.0	0.0
4. 10%未満の増加	18.1	22.2	17.5	10.0	12.9	23.8	0.0
5. 変わらない	36.3	34.9	45.0	20.0	22.6	38.1	83.3
6. 10%未満の減少	26.9	19.0	20.0	50.0	48.4	23.8	16.7
7. 10~19%の減少	10.5	14.3	5.0	10.0	12.9	9.5	0.0
8. 20~29%の減少	3.5	6.4	2.5	0.0	3.2	0.0	0.0
9. 30%以上の減少	1.2	1.6	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0

